

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

横浜ゴム株式会社 尾道工場

(2) 事業所の所在地

広島県尾道市東尾道20番地

(3) 業種

自動車タイヤ・チューブ製造

(4) 事業所位置図

別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成25(2013)年度を基準年度とし、令和3(2021)年度から令和12(2030)年度までの10年間とする。

3 計画の基本的な方向

1 基本的な考え方

当社は、環境の保全を経営の重要課題と位置付け、環境に配慮した事業活動に努め、環境への負荷の低減を

推進することにより、持続可能な社会づくりに貢献します。

特に、今日の環境問題の中でもとりわけ重要視されている地球温暖化防止については、自らの事業活動のみならず、

当社の製品を使用する消費者のことも考慮し、温室効果ガスの排出抑制に努めていきます。

2 方針

(1) 尾道工場は、全ての活動分野で環境へ配慮した施策に取り組みます。

(2) 地域社会から信頼される工場になるために、環境マネジメントシステムを強化し、環境汚染の予防と環境改善

を継続的に進めます。

(3) 全従業員及び構成員が本方針を理解し行動する様、教育と啓蒙を行います。

(4) 温室効果ガスの排出量削減を推進し、低炭素社会の実現に貢献します。

(5) 産業廃棄物の削減及び100%再資源化を維持、継続し、省資源社会の実現に貢献します。

(6) 環境方針を具現化するために、環境目的・目標を設定し、計画的に実行してまいります。環境目的・目標及び計

画は、年1回見直しを行います。

(7) 関連する法規制及び協定等を遵守し、地域社会との融和を目指した環境保全と地域貢献・社会貢献に取り組

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成 25（ 2013 ）年度	令和 2（ 2021 ）年度
二酸化炭素	22,125	12,046

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成（ ）年度	令和（ ）年度
二酸化炭素		

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成（ ）年度	令和（ ）年度
メタン		
一酸化二窒素		
その他 温室効果 ガス (HFC PFC SF6 NF3)		

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 () 年度)	削減目標		目標年度 (令和 () 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO2				0
非エネルギー起源CO2				0
メタン				0
一酸化二窒素				0
その他 温室効果ガス				0
温室効果ガス 実排出量総計				0
温室効果ガス みなし排出量		-		0
目標設定の考え方				

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：**補正庫入れゴム量(t)**

単位：排出量(t-CO₂)，原単位量 (kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 25 (2013) 年度)			原単位 削減目標 削減率 (d)	目標年度 (令和 12 (2030) 年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)		排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO2	22,125	12,950	1.71	17.5	11,823	8,385	1.41
非エネルギー起源CO2				#VALUE!			
メタン				#VALUE!			
一酸化二窒素				#VALUE!			
その他 温室効果ガス				#VALUE!			
総排出量	22,125	12,950	1.71	17.5	11,823	8,385	1.41
エネルギー消費原単位 (原油換算 k 1)	-	-	0.77	17.1	-	-	0.64
目標設定の考え方	年1%以上のエネルギー消費原単位削減を目標とする						

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項目	数値目標	具体的な取組
1	電気使用量の削減	電気の使用量を2%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・高効率照明器具への更新 ・季節変動・機械停止時の電力消費適正化 ・インバーター周波数最適化 ・作業者が窓を開閉しエアコン稼働時間の削減
2	燃料使用量の削減	燃料の使用量を2%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・蒸気配管、温水配管等の断熱強化 ・脱気器余剰熱量再利用化検討
3	自動車燃料使用量の削減	ガソリンの使用量を1%削減	アイドリングストップの徹底 輸送効率の向上
4	水使用量の削減	工業用水及び上水の使用量を年率0.5%削減	工程排水の循環使用や再利用の促進 配管からの洩れ修理

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

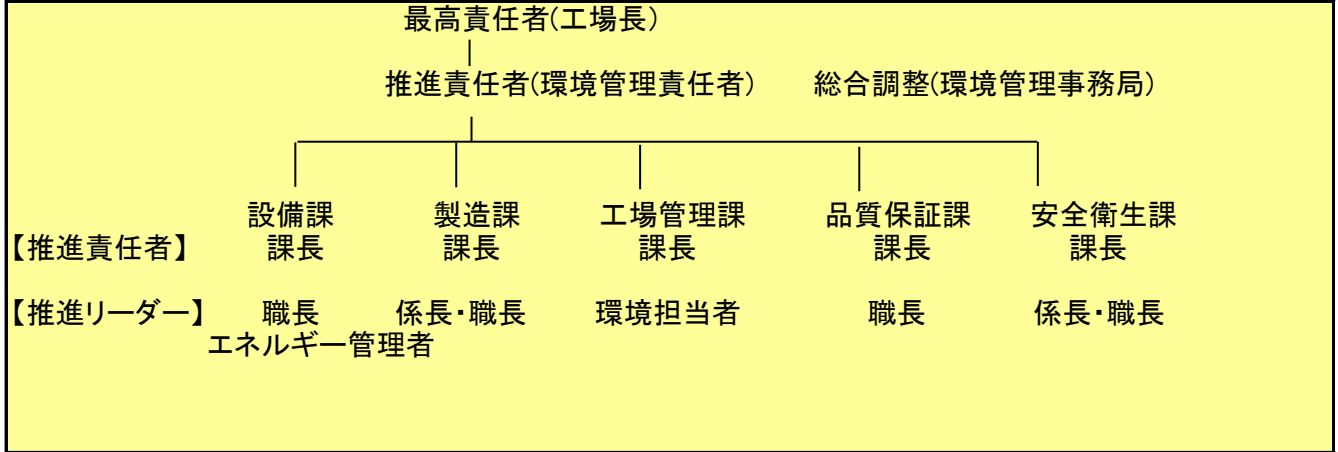
○ その他の取組

	項目	数値目標	具体的な取組
1	廃棄物排出量の削減	コピー用紙使用量を10%削減 製品屑の30%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・両面コピー、裏面利用等 ・品質向上プロジェクト実施 ・分別収集及び資源化の徹底
2	再資源化率の向上	再資源化率100%の維持	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル品の全品回収 ・廃棄物のリサイクル製品化の実施
3	有機溶剤使用量の削減	ゴム揮発油使用量を3%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・スポイド出口 口径管理 ・小出し缶、ジープ缶の揮発防止蓋の点検

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

環境管理事務局を中心として、毎年温室効果ガス削減計画の取組状況の把握・点検及び問題点の検討を行い、環境会議において定期的に評価・見直しを行い、継続的な向上を図る。

(3) 計画書等の公表

全社的にはホームページで公開